

川崎市建築物環境配慮制度受付番号 21031

建築物名称	(仮称)川崎市中原区井田三舞町計画新築工事
建築主	株式会社リビングライフ 代表取締役 炭谷 久雄
建築物の所在地	川崎市中原区井田三舞町72番1他
設計者氏名、建築士事務所名	土方 碩哉 株式会社DAN総合設計 一級建築士事務所
工事種別	新築
床面積の合計	3,505.00㎡
用途	共同住宅
構造	鉄筋コンクリート造
階数	地上5階
工事完了年月	令和5年1月
自然エネルギーの利用 (利用を検討した自然エネルギーの種類)	太陽光発電、太陽熱利用、地中熱ヒートポンプ
自然エネルギーの利用 (利用を決めた自然エネルギーの種類)	なし

Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency CASBEE川崎

■使用評価マニュアル：CASBEE-川崎2017年版

使用評価ソフト：CASBEE-川崎2017(v.3.1)

評価結果

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)川崎市中原区井田三舞町計画 新築工事	階数	地上5F
建設地	神奈川県川崎市中原区井田三舞町72番1他	構造	RC造
用途地域	第1種中高層住居専用・第1種住居、準防火地域	平均居住人員	113 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2023年1月 竣工	評価の実施日	2021年11月4日
敷地面積	1,466 m ²	作成者	土方 碩哉
建築面積	787 m ²	確認日	2021年11月12日
延床面積	3,505 m ²	確認者	炭谷 久雄

外観パース等
パースの公表を希望される場合は
図を貼り付けてください

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.0

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

環境品質 G

環境負荷 L

2-2 ライフサイクルCO₂ (温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

Q2 サービス性能

Q1 室内環境

Q3 室外環境(敷地内)

LR1 エネルギー

LR2 資源・マテリアル

LR3 敷地外環境

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 2.7

Q1 室内環境

Q1のスコア= 3.1

Q2 サービス性能

Q2のスコア= 2.7

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア= 2.2

LR のスコア = 3.2

LR1 エネルギー

LR1のスコア= 3.5

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 3.0

LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 3.2

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目についての環境配慮概要		実績重点項目スコア 合計/ 重点項目最高点のスコア合計	重点項目への 貢献点注) (5点満点)
内訳対応項目	各項目について配慮した内容を記述してください。		
緑の保全・回復(G)		Gの平均点	2.7
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策 1 生物環境の保全と創出 2 まちなみ・景観への配慮 3 3.2 敷地内温熱環境の向上		2.0/4.3	2.3
LR-3 ■ 敷地外環境対策 2 2.2 温熱環境悪化の改善		0.5/0.8	3.0
地球温暖化防止対策の推進(W)		Wの平均点	3.0
Q-1 ■ 室内環境対策 2 2.1 2.1.2 外皮性能 3 3.1 3.1.3 昼光利用設備 3.2 3.2.1 昼光制御	日本住宅性能表示基準「5-1断熱等性能等級」における等級4相当である。 カーテンと庇にて昼光制御している。	1.8/2.4	3.7
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策 1 生物環境の保全と創出 3 3.2 敷地内温熱環境の向上		0.8/2.3	1.7
LR-1 ■ エネルギー対策 1 建物外皮の熱負荷抑制 2 自然エネルギーの利用 3 設備システムの高効率化 4 効率的運用	日本住宅性能表示基準「5-1断熱等性能等級」における等級4相当である。 BEI=0.92	3.5/5.0	3.5
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策 1 水資源保護 2 非再生性資源の使用量削減 3 3.2 フロン・ハロンの回避	節水コマなどに加えて、節水型便器も採用している。 ODP=0、GWP=3の発泡剤を用いた断熱材を採用。	2.9/4.7	3.0
LR-3 ■ 敷地外環境対策 2 2.2 温熱環境悪化の改善		0.5/0.8	3.0
資源の有効利用による循環型地域社会の形成(R)		Rの平均点	3.3
Q-2 ■ サービス性能対策 2 2.2 部品・部材の耐用年数	評価方法基準で等級3相当 給水_VP(B)、給湯_架橋ポリエチレン管(C)、排水_VP(B)、Eは不使用。	0.3/0.5	3.5
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策 1 水資源保護 2 非再生性資源の使用量削減	節水コマなどに加えて、節水型便器も採用している。	2.4/4.0	3.0
LR-3 ■ 敷地外環境対策 2 2.3 地域インフラへの負荷抑制		0.2/0.4	3.0
ヒートアイランド現象の緩和(H)		Hの平均点	2.7
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策 1 生物環境の保全と創出 3 3.2 敷地内温熱環境の向上		0.8/2.3	1.7
LR-1 ■ エネルギー対策 1 建物外皮の熱負荷抑制 2 自然エネルギーの利用 3 設備システムの高効率化 4 効率的運用	日本住宅性能表示基準「5-1断熱等性能等級」における等級4相当である。 BEI=0.92	3.5/5.0	3.5
LR-3 ■ 敷地外環境対策 2 2.2 温熱環境悪化の改善		0.5/0.8	3.0

注)重点項目に該当する評価項目の得点(重み係数付)を集計し、当該項目の最高点の合計に対する貢献度を示した点数。

重点項目への貢献点の平均点 **2.9**

ライフサイクルCO2評価対象項目についての環境配慮概要		実績スコア合計/ 最高点のスコア合計	ライフサイクル CO2評価対象 項目への 貢献点注) (5点満点)
内訳対応項目	各項目について配慮した内容を記述してください。		
建設段階			
Q-2 ■ サービス性能対策 2 2.2 2.2.1 躯体材料の耐用年数	評価方法基準で等級3相当	0.1/0.1	5.0
修繕・更新・解体段階			
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策 2 2.2 既存建築躯体等の継続利用 2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		0.7/1.2	3.0
運用時のエネルギー			
LR-1 ■ エネルギー対策 1 建物外皮の熱負荷抑制 2 自然エネルギーの利用 3 設備システムの高効率化 4 効率的運用	日本住宅性能表示基準「5-1断熱等性能等級」における等級4相当である。 BEI=0.92	3.5/5.0	3.5

注)ライフサイクルCO2評価対象項目に該当する評価項目の得点(重み係数付)を集計し、当該項目の最高点の合計に対する貢献度を示した点数。

スコアシート		実施設計段階				建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体				
配慮項目	重点項目				環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数					
	G	W	R	H										
Q 建築物の環境品質										2.7				
Q1 室内環境										3.1				
1 音環境										4.0				
1.1 室内騒音レベル										3.0	0.50	3.0	0.50	3.4
1.2 遮音										5.0	0.50	3.6	0.50	
1 開口部遮音性能										5.0	1.00	5.0	0.30	
2 界壁遮音性能										-	-	3.0	0.30	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)										-	-	3.0	0.20	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)										-	-	3.0	0.20	
1.3 吸音										-	-	-	-	
2 温熱環境										2.2	0.35	2.7	1.00	
2.1 室温制御										2.2	0.50	3.3	0.50	2.6
1 室温										3.0	0.63	3.0	0.63	
2 外皮性能										1.0	0.38	4.0	0.38	
3 ゾーン別制御性										-	-	-	-	
2.2 湿度制御										1.0	0.20	1.0	0.20	
2.3 空調方式										3.0	0.30	3.0	0.30	
3 光・視環境										2.0	0.25	3.2	1.00	3.0
3.1 昼光利用										1.8	0.30	2.9	0.30	3.0
1 昼光率										1.0	0.60	4.0	0.50	
2 方位別開口										-	-	1.0	0.30	
3 昼光利用設備										3.0	0.40	3.0	0.20	
3.2 グレア対策										1.0	0.30	4.0	0.30	
1 昼光制御										1.0	1.00	4.0	1.00	
3.3 照度										3.0	0.15	3.0	0.15	
3.4 照明制御										3.0	0.25	3.0	0.25	
4 空気質環境										3.2	0.25	3.6	1.00	3.5
4.1 発生源対策										4.0	0.60	4.0	0.63	3.5
1 化学汚染物質										4.0	1.00	4.0	1.00	
4.2 換気										2.0	0.40	3.0	0.38	
1 換気量										3.0	0.50	3.0	0.33	
2 自然換気性能										-	-	5.0	0.33	
3 取り入れ外気への配慮										1.0	0.50	1.0	0.33	
4.3 運用管理										-	-	-	-	
1 CO ₂ の監視										-	-	-	-	
2 喫煙の制御										-	-	-	-	

Q2 サービス性能					—	0.30	-	-	2.7
1 機能性					2.2	0.40	2.6	1.00	2.5
1.1 機能性・使いやすさ					3.0	0.40	3.0	0.60	
1	広さ・収納性					-		-	
2	高度情報通信設備対応				3.0	1.00	3.0	1.00	
3	バリアフリー計画				3.0	1.00		-	
1.2 心理性・快適性					1.0	0.30	2.0	0.40	
1	広さ感・景観					-	3.0	0.50	
2	リフレッシュスペース				1.0	1.00		-	
3	内装計画				1.0	1.00	1.0	0.50	
1.3 維持管理					2.5	0.30		-	
1	維持管理に配慮した設計				3.0	0.50		-	
2	維持管理用機能の確保				2.0	0.50		-	
2 耐用性・信頼性					3.1	0.30		-	3.1
2.1 耐震・免震・制震・制振					3.0	0.50		-	
1	耐震性(建物のこわれにくさ)				3.0	0.80		-	
2	免震・制震・制振性能				3.0	0.20		-	
2.2 部品・部材の耐用年数					3.5	0.30		-	
1	躯体材料の耐用年数	R			5.0	0.20		-	
2	外壁仕上げ材の補修必要間隔	R			2.0	0.20		-	
3	主要内装仕上げ材の更新必要間隔	R			2.0	0.10		-	
4	空調換気ダクトの更新必要間隔	R			3.0	0.10		-	
5	空調・給排水配管の更新必要間隔	R			5.0	0.20		-	
6	主要設備機器の更新必要間隔	R			3.0	0.20		-	
2.4 信頼性					2.8	0.20		-	
1	空調・換気設備				3.0	0.20		-	
2	給排水・衛生設備				3.0	0.20		-	
3	電気設備				3.0	0.20		-	
4	機械・配管支持方法				3.0	0.20		-	
5	通信・情報設備				2.0	0.20		-	
3 対応性・更新性					3.0	0.30	2.7	1.00	2.7
3.1 空間のゆとり						-	2.4	0.50	
1	階高のゆとり					-	2.0	0.60	
2	空間の形状・自由さ					-	3.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり						-	3.0	0.50	
3.3 設備の更新性					3.0	1.00		-	
1	空調配管の更新性				3.0	0.20		-	
2	給排水管の更新性				3.0	0.20		-	
3	電気配線の更新性				3.0	0.10		-	
4	通信配線の更新性				3.0	0.10		-	
5	設備機器の更新性				3.0	0.20		-	
6	バックアップスペースの確保				3.0	0.20		-	
Q3 室外環境(敷地内)					—	0.30	-	-	2.2
1 生物環境の保全と創出				G	W				1.0
2 まちなみ・景観への配慮				G					3.0
3 地域性・アメニティへの配慮									2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上									2.0
3.2 敷地内温熱環境の向上				G	W				3.0

LR 建築物の環境負荷低減性										3.2	
LR1 エネルギー										3.5	
1 建物外皮の熱負荷抑制		W		H		日本住宅性能表示基準「5-1断熱等性能等級」における等級4相当である。		4.0	0.20	-	4.0
2 自然エネルギー利用		W		H				2.0	0.10	-	2.0
3 設備システムの高効率化		W		H		[BEQ][BEIm] = 0.92		3.8	0.50	-	3.8
4 効率的運用								3.0	0.20	-	3.0
集合住宅以外の評価											
4.1 モニタリング		W		H							
4.2 運用管理体制		W		H							
集合住宅の評価								3.0	1.00	-	
4.1 モニタリング		W		H				3.0	0.50	-	
4.2 運用管理体制		W		H				3.0	0.50	-	
LR2 資源・マテリアル										3.0	
1 水資源保護		W		R				3.4	0.20	-	3.4
1.1 節水						節水コマなどに加えて、節水型便器も採用している。		4.0	0.40	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用								3.0	0.60	-	
1 雨水利用システム導入の有無								3.0	1.00	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無										-	
2 非再生性資源の使用量削減								2.8	0.60	-	2.8
2.1 材料使用量の削減		W		R				2.0	0.10	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用		W		R				3.0	0.20	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		W		R		-		3.0	0.20	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		W		R		-		1.0	0.20	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材		W		R				2.0	0.10	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		W		R		LGS使用している。		5.0	0.20	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避								3.3	0.20	-	3.3
3.1 有害物質を含まない材料の使用								3.0	0.30	-	
3.2 フロン・ハロンの回避								3.5	0.70	-	
1 消火剤		W						-	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)		W				ODP=0, GWP=3の発泡剤を用いた断熱材を採用。		4.0	0.50	-	
3 冷媒		W						3.0	0.50	-	
LR3 数地外環境										3.2	
1 地球温暖化への配慮		W				ライフサイクルCO2排出率85%		3.5	0.33	-	3.5
2 地域環境への配慮								2.9	0.33	-	2.9
2.1 大気汚染防止								3.0	0.25	-	
2.2 温熱環境悪化の改善		G	W		H			3.0	0.50	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制								2.7	0.25	-	
1 雨水排水負荷低減					R			3.0	0.25	-	
2 汚水処理負荷抑制					R			3.0	0.25	-	
3 交通負荷抑制					R			3.0	0.25	-	
4 廃棄物処理負荷抑制					R			2.0	0.25	-	
3 周辺環境への配慮								3.2	0.33	-	3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止								3.0	0.40	-	
1 騒音								3.0	1.00	-	
2 振動								-	-	-	
3 悪臭								-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制								3.0	0.40	-	
1 風害の抑制								3.0	0.70	-	
2 砂塵の抑制								4.0	-	-	
3 日照障害の抑制								3.0	0.30	-	
3.3 光害の抑制								4.4	0.20	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策						光害対策ガイドライン、広告物照明の取扱いの過半を満足		5.0	0.70	-	
2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策								3.0	0.30	-	